

## 第33回 ICT活用教育の推進に関する事業改善検討委員会 資料

【資料1】 バズらせよう！あなたのアイデア！～30秒で魅せる高校生活CM & プレゼンコンテスト.....	1
【資料2】 教育におけるICT活用事例 .....	2
【資料3】 令和5年度1人1台端末の活用状況調査(佐賀県独自調査2回目).....	4
【資料4】 GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト～学校・教育委員会の自己点検結果～	10
【資料5】 発達段階に応じた情報活用能力について .....	13

令和6年2月15日(木) 佐賀県教育委員会

**バズらせよう！あなたのアイデア！**  
**30秒で魅せる** **高校生活 CM&プレゼンコンテスト**

**注目① TikTok世代の高校生たちが、いまドキの高校生活を発信！**

**注目② 生産物販売会**  
 ~高校生が販売しました~

**同時開催!**

**売り切れ御免!**


 厳木高校  
 「君を伸ばす！厳木高校」


 龍谷高校  
 「RYUKOKU×SDGs」


 佐賀商業高校  
 「SAGAPARINORI」  
 ごま油ねぎ味オリジナル商品をPR


 佐賀商業高校  
 「2.7次元」


 鹿島高校  
 「鹿島さいこう！プロジェクト  
 ~青春を探せ！~」

高校生活をCM風に動画化し、  
 その動画に込めた思いや工夫を  
 プレゼン発表しました！

※一次審査通過の5組が発表。  
 ※当日会場では、応募された全動画（CM）も公開。

高校生が生産した、  
 焼き菓子、ドレッシング、  
 手作りの洗顔石鹸など、  
 たくさんの商品が集結！

※12:00~16:00

**日時** 12月3日(日曜日) 13:00~15:30  
**場所** ゆめタウン佐賀 1階イーストコート **入場無料!**

Copyright©2023. Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

1

**バズらせよう！あなたのアイデア！**  
**30秒で魅せる** **高校生活 CM&プレゼンコンテスト**

**優勝** 鹿島高校  
**準優勝** 厳木高校  
**第3位** 龍谷高校  
**学校賞** 佐賀商業高校




当日の会場の様子


 デジタルサイネージ（佐賀駅前）


 生産物販売会



Copyright©2023. Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

2

## R5 教育におけるICT活用事例

- ・目的：教職員が実践したICT活用事例を公募し、特に優れているものについて紹介及び表彰を行い、各学校の教育実践の参考となるよう県全体に共有し、本県教育の質の向上につなげる。
- ・募集内容：1人1台端末を活用した「活用事例」及び「デジタル教材」。学校教育全般に関するもの（各教科、特別活動、総合的な究の時間）とする。

3

## R5 教育におけるICT活用事例

- ・審査方法：書類および補足資料について以下の3観点に基づいて審査する。

### 【観点①】 1人1台端末の効果的な活用

端末を使うことで効果的、かつ従来の授業と違いが生じるか。  
多くの教員による実践が可能な汎用性や普及性が期待できるか。

### 【観点②】 独創性、オリジナリティの有無

教材やコンテンツに教員自身の工夫やオリジナリティがあるか。  
市販の教材に頼りすぎない実践であるか。

### 【観点③】 「新たな学び、及び働き方改革」へのアプローチ

授業改善の観点から、個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学び等に活かせるか。また、学力向上に活かせるか。  
働き方改革の観点から、業務の改善や効率化に有効か。

4

## R5 教育におけるICT活用事例

### ・審査の流れ

全21事例(小・中・高・特)



一次審査(教育DX推進グループ内審査)

～21事例から8事例を選定



本審査 ～最優秀賞(1)及び優秀賞(2)を選定

審査員(敬省略)

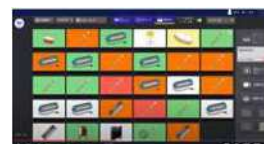
【審査委員長】 小泉 カー	北海道大学 情報基盤センター訪問研究員 東京学芸大学 個人研究員(オンライン参加)
有馬 ゆかり	佐賀県小中学校校長会 会長(みやき町立三根中学校長)
野田 亮	佐賀県高等学校長協会 会長(佐賀県立佐賀西高等学校長)
嘉村 直樹	佐賀県教育委員会事務局 副教育長
見浦 浩徳	佐賀県教育委員会事務局 教育DX推進グループ推進監

5

## R5 教育におけるICT活用事例

### ・受賞事例

**最優秀賞** 唐津市立成和小学校 野本 純一 指導教諭  
小学校音楽科における1人1台端末活用実践例  
5年 合奏『キリマンジャロ』(小・音楽)



**優秀賞** 中原特別支援学校 松永 泰臣 教諭  
特別支援学校での算数における1人1台端末活用の一事例 ～「わかる」「できる」主体的な学習の姿を目指して～(特・算数)



**優秀賞** 牛津高等学校 江島 千佳 教諭  
1人1台端末を活用した生徒が自ら学びに向かうしくみづくり(高・理科)



6

## R5 教育におけるICT活用事例

### ・表彰式 (R6.2.2 県庁CLASS)



受賞された3事例は、SAGA Eコネクトなどに掲載するなどし、各学校の教育実践の参考となるよう県全体に共有していく。



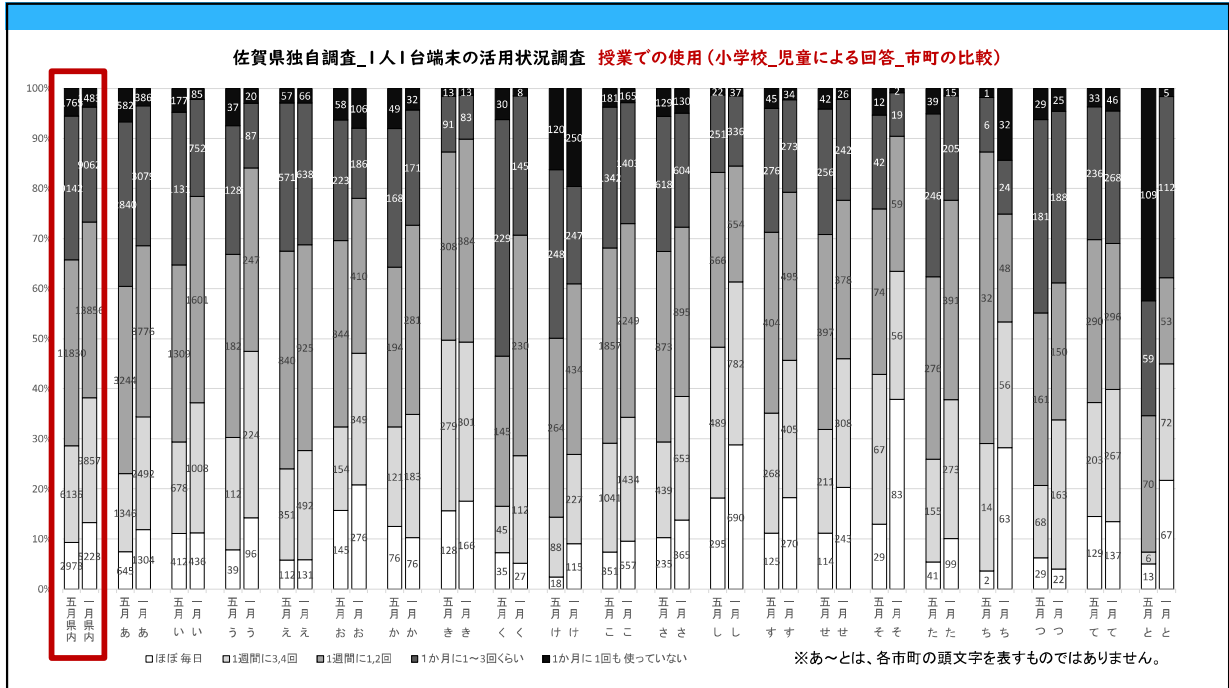
7

資料 3

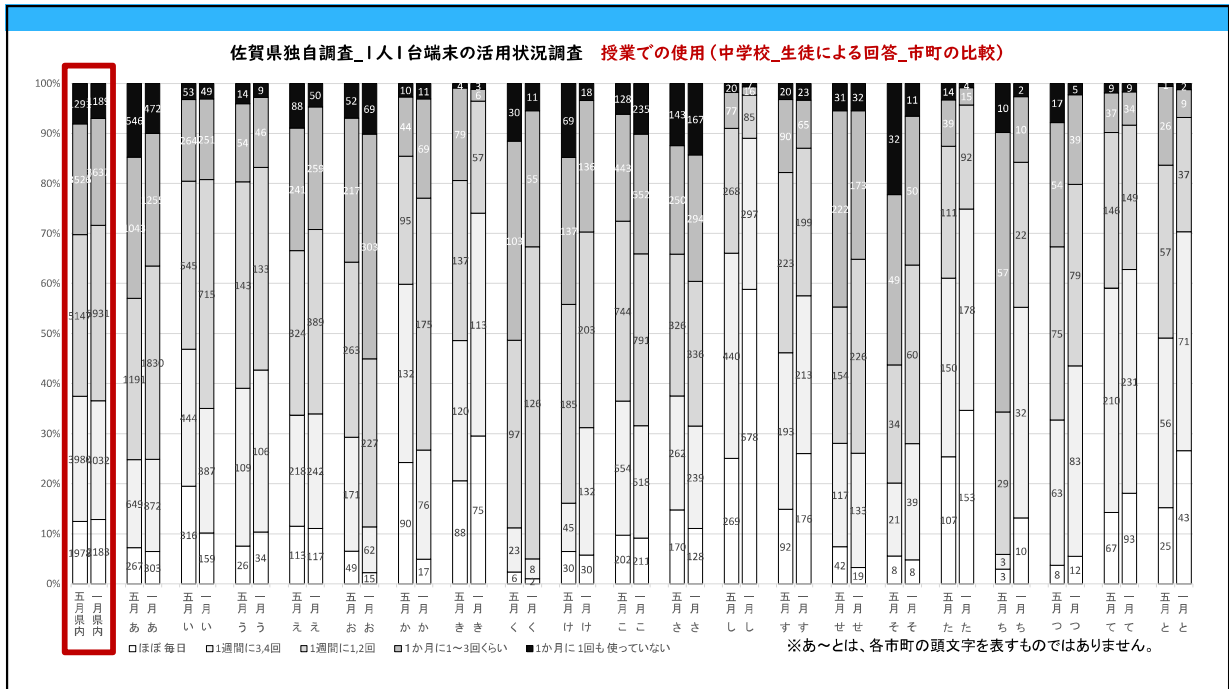
# 令和5年度 1人1台端末の活用状況調査

 佐賀県教育委員会  
<http://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/default.html>

8



9



10



1人1台端末をあまり利用させていない理由(佐賀県独自調査\_1人1台端末の活用状況調査2回目)

【小学校\_\_授業での使用が「月1回以上」、「月1回未満」と回答した教員の記述回答より】

- ・低学年での活用が難しい
- ・効果的な活用方法が分からない
- ・時間に余裕がなかった
- ・準備や片付けに時間がかかる
- ・保管庫への出し入れが煩わしい
- ・実技教科(書写、音楽、図画工作、家庭科)、理科、算数の授業で使わせにくい
- ・端末を使う必要性を感じなかった
- ・特別支援学級／通級指導教室での効果的な活用が難しい／分からない  
特別支援学級／通級指導教室で使用する事が少ない
- ・接続の不具合や設定の遅れなど、環境が整っていない
- ・ルールを守れない児童がいる
- ・電子黒板の方が効率がよい場合が多い

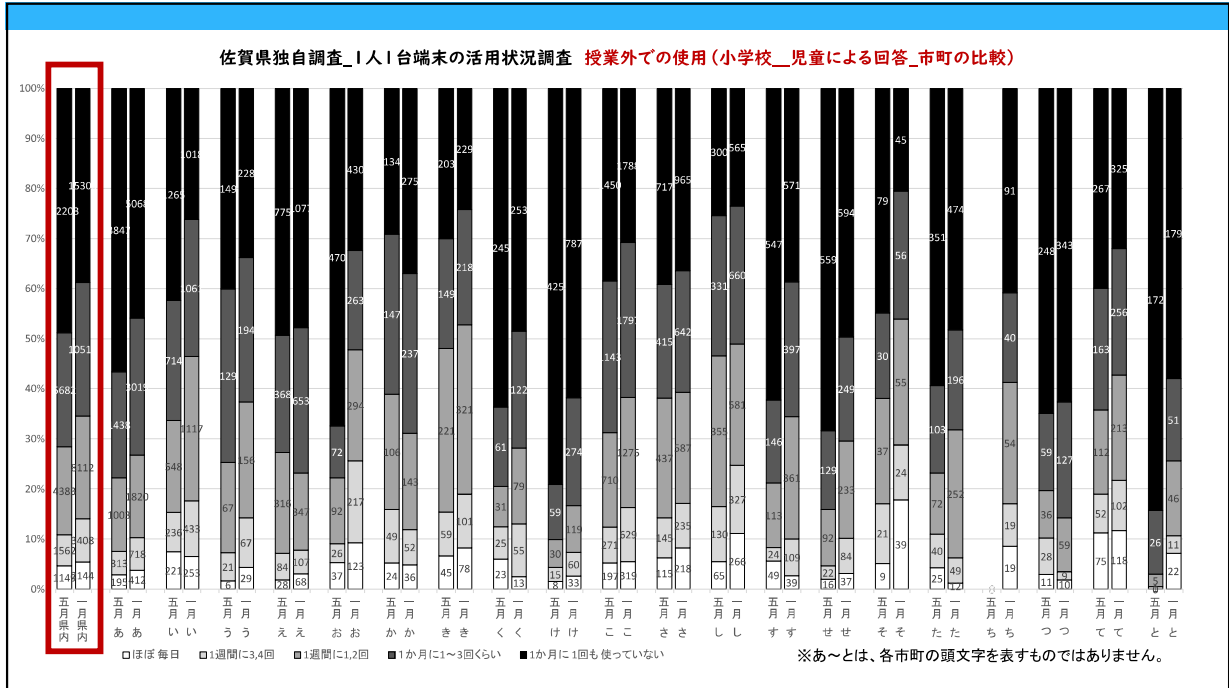
11

1人1台端末をあまり利用させていない理由(佐賀県独自調査\_1人1台端末の活用状況調査2回目)

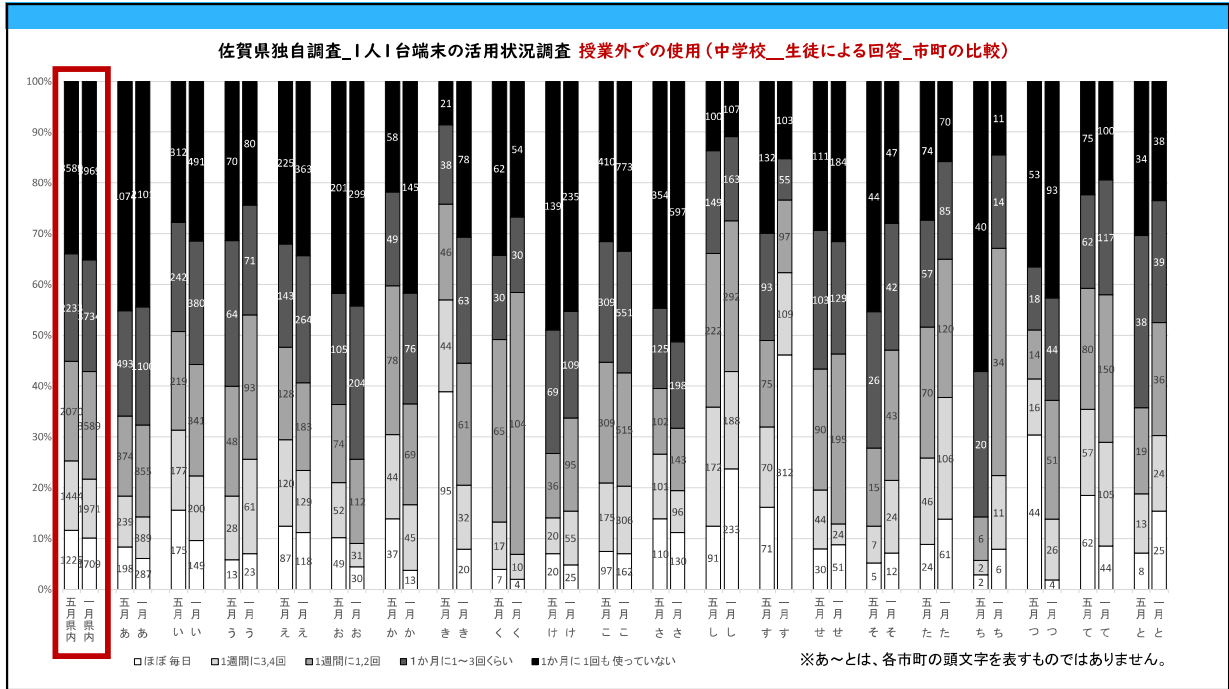
【中学校\_\_授業での使用が「月1回以上」、「月1回未満」と回答した教員の記述回答より】

- ・1人1台端末を使う必要性を感じなかった
- ・思うように授業が進まなくなる
- ・ネットへの接続や起動時間など、環境が整っていない
- ・保管庫の出し入れで準備や片付けに時間がかかる
- ・時間に余裕がない
- ・実技教科担当、特別支援学級担当、養護教諭、栄養教諭なので、あまり使う機会がなかった
- ・電子黒板、ワーク、ワークシートを使った授業の方がしやすい
- ・生徒が授業に関係がない動画を見たり、ルールを守れなかったりする
- ・自分の教科での活用が分からない／自分自身のスキル不足
- ・入試があるので、手で書かせたい
- ・使う必要がある時だけ使わせている
- ・教育効果が得られない

12

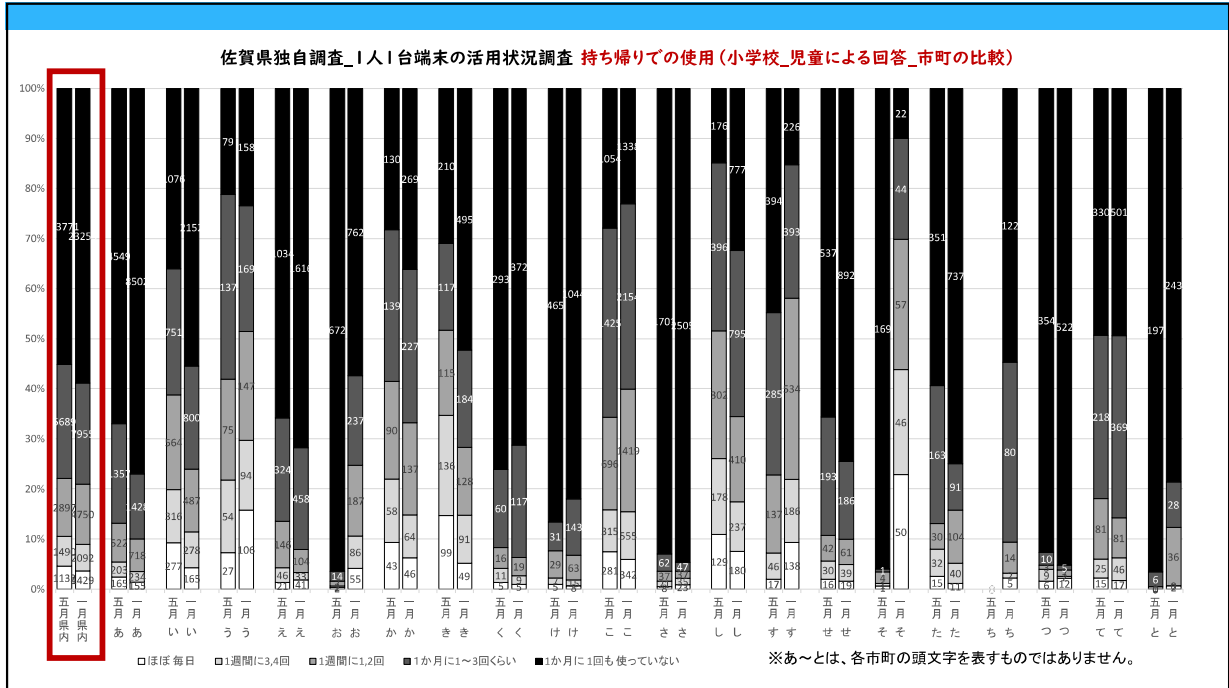


13

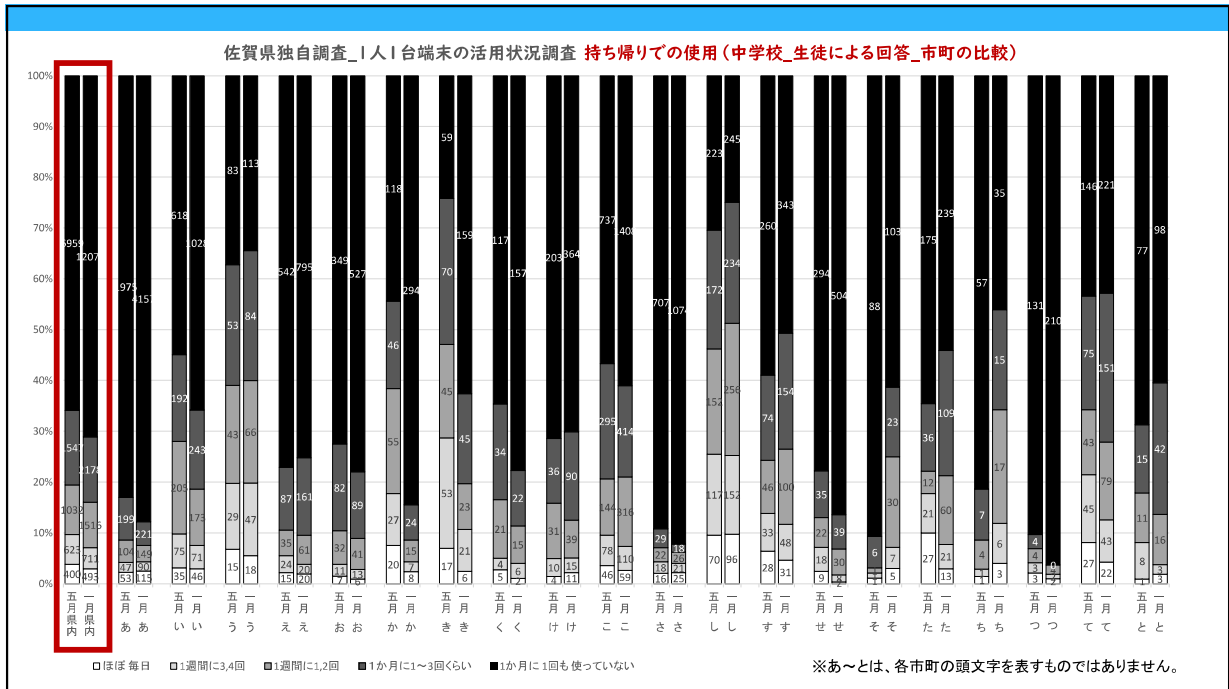


14

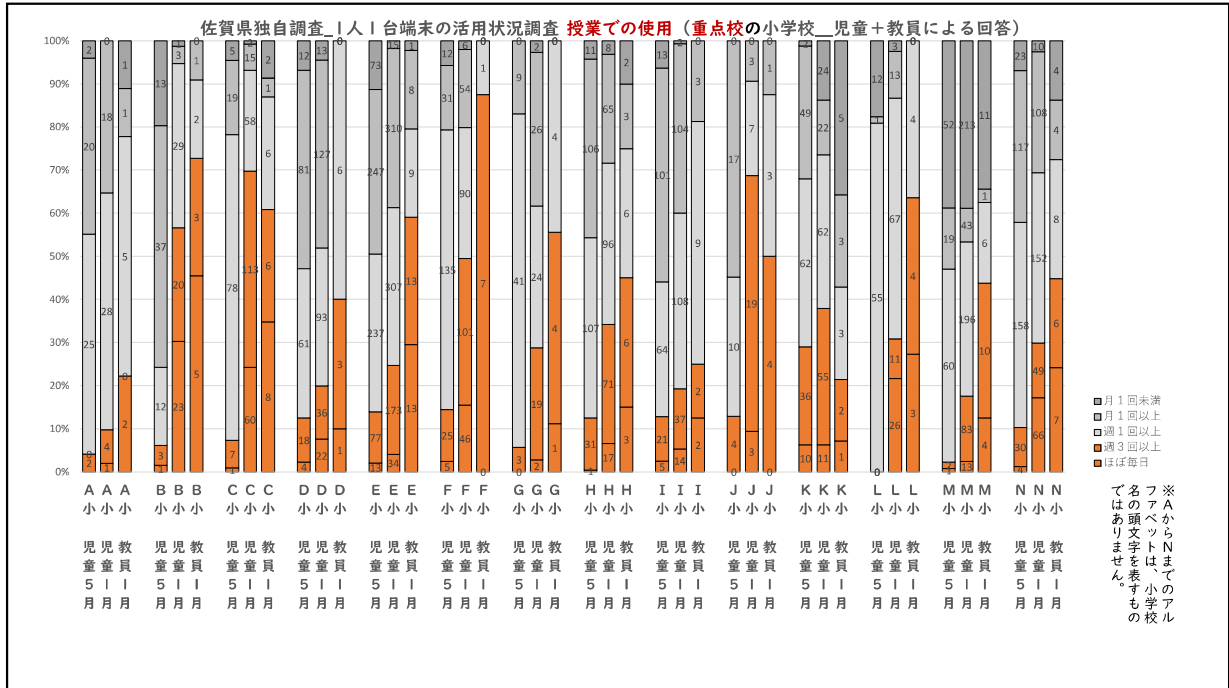




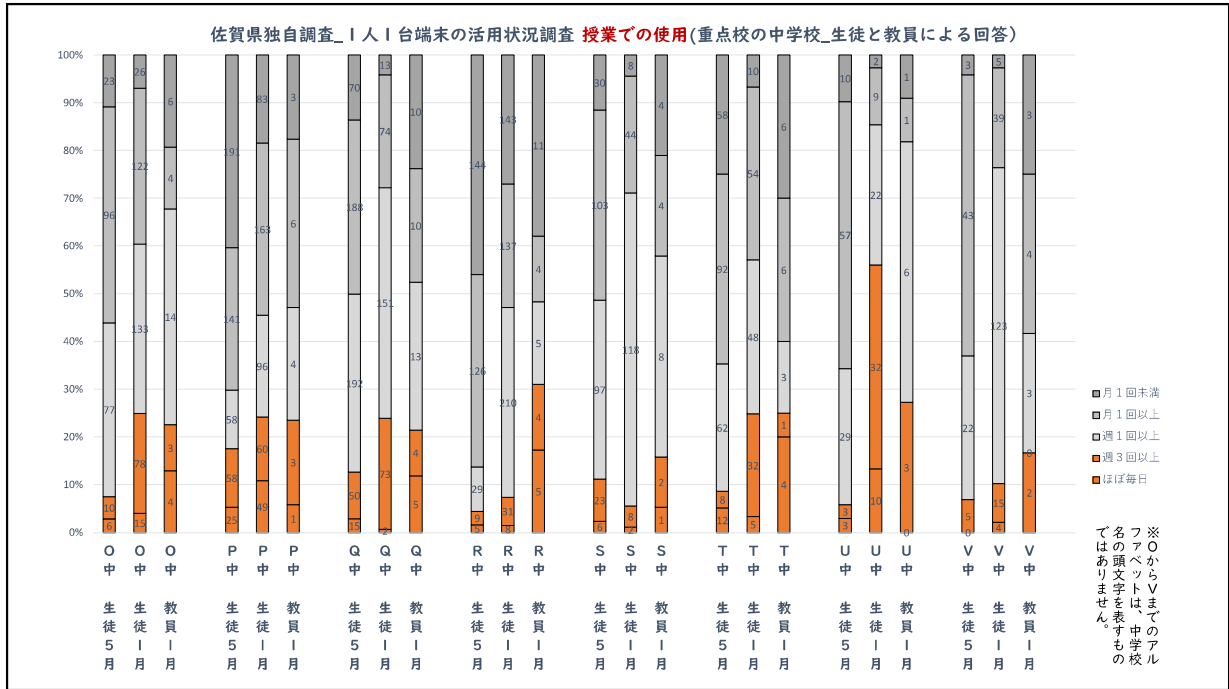
15



16



17



18

## GIGAスクール構想の下での 校務DX化チェックリストに基づく 自己点検について

19

### GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく自己点検

#### 1. 実施の経緯

- ① 令和5年3月の「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言において、今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウドツールの積極的な活用による負担軽減・コミュニケーションの活性化を推進すべきとしています。これを受け、文部科学省では4月以降、主に若手・中堅教員から課題を聴取し、優れた取組事例の収集・分析を行ってきました。
- ② こうした中、同年8月に中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」で取りまとめられた「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」でも、汎用クラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの転用による校務処理の負担軽減、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者等間の連絡手段の原則デジタル化などが提言されました。
- ③ これを受け、有識者や学校現場の意見聴取を経て、望ましい取組項目を整理したチェックリストを作成し、これに基づく自己点検結果の報告について、市町村別のデータ公表を前提として、各学校・教育委員会に依頼しました。

#### 2. 対象

- ・公立小中学校（義務教育学校、中等教育学校の前期課程、特別支援学校）の小学部及び（中学部を含む）
- ・公立小中学校の設置者

#### 3. 実施期間・実施方法

令和5年9月29日開始～11月2日締め切り  
文部科学省web調査システム“EduSurvey” ※締切終了後も、複数回リマインドを行い、12月14日までに入力されたデータで集計

#### 4. 回答数

公立小中学校：26364（回答率90.9%）  
公立小中学校の設置者：1690（都道府県教委：46、市区町村教委：1621、学校組合等：23）（回答率93.3%）

#### 5. 留意事項

今回の取りまとめ結果は各学校・教育委員会が“EduSurvey”に入力した自己点検結果をそのまま集計したものです。各回答項目の選択肢を選ぶに当たっての判断は各学校・教育委員会に任されており、文部科学省では回答の精度を確認する等のデータクリーニングは行っていません。そのため、**大まかな傾向は掴めるものの、自治体間の結果を単純比較できるものではありません。**また、ネットワークや端末、関係規則が十分に整備されていない等、**学校だけで直ちに改善が難しい項目**もあります。こうしたことを前提に、各自治体・各学校では、本調査の結果を単純比較に用いるのではなく、**改めて教職員全体で今回の結果を見直し、校務DXの改善と徹底に活かすツールとして活用**いただきたいと思います。

20

## 「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト（学校向け）」 自治体別達成状況 【R5年度佐賀県】

各学校の回答について、項目ごとの達成状況に応じて点数を割り振り、各項目で校務DXが最も達成されている状態を30点、計34項目1020点満点で換算し、域内の学校の点数の平均値を各設置者の平均得点として整理した。

- ✓ 各選択肢の配点は以下の通り。  
2択の項目：0点、30点  
4択の項目：0点、10点、20点、30点  
6択の項目：0点、6点、12点、18点、24点、30点
- ✓ 今回の調査結果は各学校が文部科学省WEB調査システム“EduSurvey”に入力した自己点検結果をそのまま集計したもの。各回答項目の選択肢を違ふに当たっての判断は各学校に任されており、文部科学省では回答の精度を確認する等のデータクリーニングは行っていない。また、自治体によっては域内の学校がごく少数であるために1校の回答が結果に大きく影響を与えている。そのため大まかな傾向はつかめるものの、自治体間の結果を単純比較できるものではない。また、ネットワークや端末、関係規則などが十分に整備されていない等、学校だけで直ちに改善が難しい項目もある。こうしたことを前提に、各自治体・各学校においては、本調査の結果を単純比較に用いるのではなく、校務DXの改善に活かすツールとして活用いただきたい。
- ✓ 本資料は令和5年12月14日までに“EduSurvey”に入力されたデータを元に集計を行っている。同日までに域内の学校から回答が無かった自治体は“報告なし”としている。

21

### 【都道府県別】

都道府県	報告数	平均得点
全国	26364	363.1
1 北海道	1521	389.3
2 青森県	398	263.4
3 岩手県	391	223.0
4 宮城県	536	350.6
5 秋田県	292	253.3
6 山形県	276	287.2
7 福島県	532	270.3
8 茨城県	658	450.7
9 栃木県	497	348.7
10 群馬県	443	352.4
11 埼玉県	1143	382.2
12 千葉県	1139	344.9
13 東京都	1652	421.1
14 神奈川県	1159	351.3
15 新潟県	624	361.4
16 富山県	260	349.6
17 石川県	293	393.7
18 福井県	224	422.2
19 山梨県	200	378.0
20 長野県	481	356.6
21 岐阜県	543	390.7
22 静岡県	726	404.7
23 愛知県	1404	354.5
24 三重県	434	364.4
25 滋賀県	315	345.2
26 京都府	470	381.6
27 大阪府	1303	397.4
28 兵庫県	1041	409.1
29 奈良県	261	446.9
30 和歌山県	355	242.9
31 鳥取県	176	363.0
32 島根県	235	305.9
33 岡山県	456	333.0
34 広島県	594	324.6
35 山口県	361	333.4
36 徳島県	231	300.8
37 香川県	226	279.7
38 愛媛県	406	407.1
39 高知県	274	368.2
40 福岡県	1031	367.2
41 佐賀県	254	325.6
42 長崎県	452	334.0
43 熊本県	470	397.1
44 大分県	374	385.1
45 宮崎県	365	314.7
46 鹿児島県	623	336.3
47 沖縄県	265	406.9

佐賀県は  
325.6点で全国平均以下。（全国36位）  
校務のDX化について取り組む必要あり。

### 【県内市町別】

41. 佐賀県		
設置者数 (21)		
設置者	報告数	平均得点
佐賀県全域	254	325.6
1 佐賀県	14	323.1
2 佐賀市	53	330.8
3 唐津市	51	301.1
4 鳥栖市	12	325.2
5 多久市	3	492.7
6 伊万里市	19	302.1
7 武雄市	18	360.1
8 鹿島市	10	392.0
9 小城市	12	351.5
10 糟野市	13	200.5
11 神埼市	10	309.6
12 吉野ヶ里町	4	288.5
13 基山町	2	398.0
14 上峰町	2	328.0
15 みやき町	7	396.0
16 玄海町	1	438.0
17 有田町	6	362.7
18 大明町	0	報告なし
19 江北町	2	326.0
20 白石町	11	365.1
21 太良町	4	299.0

市町別にみると  
492.7点から200.5点まで様々  
地域差が出ている。

22

## 学校向けチェックリストの項目

### 教員と保護者間の連絡のデジタル化

- ① 学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか
- ② 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、P.C・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか
- ③ 保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか
- ④ 学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか
- ⑤ 業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービス等を用い、P.C・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか
- ⑥ 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか
- ⑦ 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか
- ⑧ 学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れていますか

「完全にデジタル化している」と「一部している（半分以上）」と答えた割合

全国 72.4%  
全国割合以上の市町 15 / 19市町 (1町が未回答のため)

「完全にデジタル化している」と「一部している（半分以上）」と答えた割合

全国 58.5%  
全国割合以上の市町 4 / 19市町 (1町が未回答のため)

「整えている」と答えた割合

全国 20.4%  
全国割合以上の市町 5 / 19市町 (1町が未回答のため)

23

## 学校向けチェックリストの項目

### 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

- ① 児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか
- ② クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れていますか
- ③ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていますか
- ④ 児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか
- ⑤ 宿題（学期中のもの）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか
- ⑥ 宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか
- ⑦ クラウドサービス等を活用し、定期テストにCBTを取り入れていますか

③「毎日持ち帰って、毎日利用」「毎日持ち帰って、時々利用」と答えた割合

全国 33.5%  
全国割合以上の市町 2 / 19市町 (1町が未回答のため)

④「整えている」と答えた割合

全国 23.0%  
全国割合以上の市町 5 / 19市町 (1町が未回答のため)

24

## 学校向けチェックリストの項目

学校内の連絡のデジタル化	
① 教員は校務用の個人メールアドレスが附与されていますか	① 「付与されている」と答えた割合 全国 78.1% 全国割合以上の市町 19/19市町 (1町が未回答のため)
② 職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか	⑤ 「取り入れている」と答えた割合 全国 46.1% 全国割合以上の市町 19/19市町 (1町が未回答のため)
③ 職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか	⑥ 「取り入れている」と答えた割合 全国 58.5% 全国割合以上の市町 4/19市町 (1町が未回答のため)
④ 教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか	⑩ 「完全にデジタル化している」と「一部受け付けている(半分以上)」と答えた割合 全国 19.3% 全国割合以上の市町 0/19市町 (1町が未回答のため)
⑤ 校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか	
⑥ 授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか	
⑦ 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか	
⑧ 職員会議等における検討事項について、クラウドサービスを用いて事前に情報共有し、あらかじめ意見を求めていますか	
⑨ 長期休暇期間(夏休み等)の教職員の勤務調整をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか	
⑩ 校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしていますか	
⑪ 教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか	
⑫ 授業研究会や校内研修等をハイブリッド(対面・オンライン)で実施していますか	
⑬ 学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか	
⑭ 職員会議等をハイブリッド(対面・オンライン)で実施していますか	
その他	
① 学校・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいように整理され、閲覧できますか	
② 1人1台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せられていますか	
③ 保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類はありますか	
④ 業務にFAXを使用していますか	
⑤ 「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する指針的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか	

25

## 資料5

発達段階に応じた  
情報活用能力について  
R6年度小・中学校の取り組みについて

26



## 情報活用能力とは

学習活動において必要に応じて  
コンピュータ等の情報手段を適切に用いて

情報を得る

情報を整理・比較する

得られた情報をわかりやすく発信・伝達する  
必要に応じて保存・共有する

コンピュータ等の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、  
情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである

27

県内の高等学校では「プレゼンコンテスト」を実施

**Basara se you! あなたのアイデア!**  
**30秒で 高校生活 CM&プレゼンコンテスト**

注目① **TikTok** 世代の高校生たちが、**1分以内**の高校生活を発信します!

注目② **生産物販売会**  
～高校生が販売します～

高校生活をCM風に動画化し、  
その動画に込めた思いや工夫を  
**プレゼン**発表します!

※一次審査通過の5組が発表します。  
※当日会場では、応募された全動画 (CM) も  
公開します。

高校生が生産した、  
焼き菓子、ドレッシング、  
手作りの洗剤石鹸など、  
たくさんの商品が集結!  
※2,000～16,000

日時 **12月3日(日曜日) 18:00～19:30**  
場所 **ゆめタウン佐賀 1階イーストコート 入場無料!**

小中学生においても、情報活用能力を育成するための  
取り組みが必要!

28



## (案) R6年度「SAGAタイピング選手権（仮称）」を開催

### <概要>

- ・本番はCM&プレゼンコンテストと同日同会場にて実施  
(12月、ゆめタウン佐賀)
- ・小学生低学年の部／小学生中学年の部／小学生高学年の部  
／中学生の部 の4部門を開催
- ・本番には予選を通過した各部門5名ずつが参加
- ・各部門優勝者には賞状と記念品を贈呈
- ・各部門2位3位には賞状を贈呈
- ・本選出場者にも参加賞を贈呈



会場のイメージ

29

## SAGAタイピング選手権の競技内容

### □無料タイピング教材（民間の既存教材）を活用



- ・1分間での得点を競う。
- ・児童生徒それぞれが練習できるようにする。（隙間時間で練習可能）
- ・高い得点がでたら、学校名、学年、名前等を県教育DX推進グループに送信  
(Formsを想定。SAGAEコネクトより応募)
- ・各部門の得点の高い児童生徒上位5名が本選へ出場
- ・6月から月に1回ランキングを発表（SAGAEコネクトにて）

30

## SAGA タイピング選手権の大会内容

- 無料タイピング教材（民間の既存教材）を活用
- 2分間での得点を競う。
- 児童生徒それぞれが使い慣れた端末を持参する。  
※端末によって操作性が違うため。（DXからの端末貸し出しも可）
- 児童生徒の様子を画面（プレゼンコンテストで使う大画面）に表示
- 大会終了後、その場で教育長より表彰

- このことを県内小中学生に広く周知し、取り組んでいく。
- 学校での取り組みではなく、個人個人が家庭・休み時間など、いつでもどこでも練習できるようにすることでスキルアップを目指す。
- 学校賞も検討



表彰イメージ